

厳正な審査の結果、2026年度の調査研究助成事業は、以下の3件について採択することと決定しました。（並びは申請順）

研究代表者（所属）	調査研究テーマ	助成額
鈴木 亜季 (桑名市博物館)	伊勢桑名周辺地域に関わる刀剣類の 総合的研究	50万円
山田 元樹 (大牟田市立図書館)	三池派の研究	60万円
喜多 日奈 (談山神社刀剣保存委員会)	談山神社所蔵刀剣群についての調査研究	100万円

2026 年度 調査研究助成事業 審査を終えて

一般社団法人 刀剣文化研究保全機構 代表理事 小坂崇氣

〈一般社団法人 刀剣文化研究保全機構〉による第 1 回 (2026 年度) 調査研究助成事業は、2025 年 4 月 17 日に応募要領を公開、7 月 31 日に応募受付を終了し、原田一敏氏（ふくやま美術館 館長）を審査委員長とする全 7 名の学識経験者の厳正な審査を経て、11 月 4 日、審査結果を発表いたしました。

相対的に研究者の少ない分野（刀剣に関する美術史学、歴史学、考古学の研究）をテーマとすること、法人立ち上げから間もなくの募集であり、周知に十分な時間が取れないことなど、ハードルも多い事業でしたが、各地の公立美術館・博物館、図書館、寺社などに所属する学芸員、司書の方々から 6 件のご応募をいただきました。その中からいざれも地域に根ざした刀剣研究をテーマとする 3 件を採択できたことを、心から嬉しく思っています。

また神社が学芸員を雇用し、自らが主体となって所蔵刀剣の悉皆調査を行う、あるいは図書館所属の司書が文献調査を計画するなど、美術館・博物館に限らない、多様な主体による研究を採択できたことは、当初の想定を超える大きな成果であったと考えています。採択者には 2026 年の 1 年間を研究期間に充て、1 年後に成果を発表いただきます。その内容は審査者の皆さんにも共有いただける形で公表する予定です。

助成金は最大で 10 件、上限 200 万円を想定して準備していましたが、残念ながら初年度の募集では全額の給付にまでは至りませんでした。今後は応募がより容易になるような募集の仕組みや広く周知いただくための広報活動、そしてさまざまなステージの美術館・博物館職員が応募できる助成内容など、事務局側でもさらなる改善・向上に努めてまいります。

また調査研究助成事業以外にも、有識者による講演会や配信番組、災害時の寄付制度づくりなど、刀研機構の定款に掲げる事業の充実を図り、情報公開にも取り組んでいきます。事業の原資を提供いただいている審査者の皆さんには、あらためて心より御礼を申し上げるとともに、今後の活動にご期待いただければ幸いです。